

助けてもらう勇気 ～ 人にやさしくする ～

筆者は、昨日(2025年12月25日)、【日本の小学校、中学校の授業で、語って良い歴史上の人物は、誰ですか?】と質問された。筆者は、さりげなく『新渡戸稲造(1862-1933)と内村鑑三(1861-1930)』と語った。

早速、【樋野興夫先生：やはり内村鑑三と新渡戸稲造ですね! & 『武士道』も『代表的日本人』も名著として名高いですね。先生から教えていただいて『武士道』は読んだことがありますて、昔の方なのに今の時代にも通じる しなやかな思想に驚いたのを覚えています。昔も今も人間の品格に違いはない ということでしょうか。】との心温まる、励ましのメールを頂いた。大いに感動した。

筆者は、以前、『樋野流・人生哲学』で【『一生』という時間のなかで、わたしたちはいろいろな経験をします。思いもよらないことが起き、『自分は なんて無力なんだろう』と思ったり、『なんて自分はダメなんだろう』とってしまう “とき” も何度かあるでしょう。人間は、自分自身が思っている以上の何者かです。存在自体に価値があるのです。『なぜ、こんな目に あわなければならないのか』(2023年 いのちのことば社発行)(添付)と思うようなことが起きて、どうしたらいいのか、わからない。そんな “とき”、人は落ち込んだり、悲しんだり、不安になります。それが自然なのです。そして、もうひとつ、がんばりすぎてはいけませんよ。自分の力だけでなんとかしようとするのではなくて、誰かに助けてもらう勇気を出してみてください。それが きっかけで、周りの人たちは『人にやさしくすること』を覚えます。】と記述したのが鮮明に蘇ってきた。

『樋野流 人生哲学』の5か条

- 1) 「姿勢」
- 2) 「みだりに 他人に干渉しない」
- 3) 「お節介ばかりして、締まりのない歩み方をしない」
- 4) 「うわさ話や 余計なお節介 をしない」
- 5) 「実存的空虚の克服」

がん病理学者が読む
聖書「ヨブ記」

樋野興夫

Hino
Okio

なぜ、こんな目に
あわなければ
ならないのか

